

平成27年度 上越市社会科部 活動報告

部長 杉田 健一

1 研究主題

意欲的に社会的事象にかかわり、自ら考え判断し、社会的な見方や考え方を身に付ける社会科授業のあり方

2 研究の概容

社会科部では、上越市社会科スーパーティチャーである城西中学校の渡邊洋臣先生の授業を参観し、協議会を開催した。小学校の教員と中学校の教員が一つの授業を参観し、社会科として大切にしなければならないことは何か、ということを通しに持ち、優れた授業に学ぶことを通して社会科教師としての力量を高めることにした。

3 研究の実際

(1) 公開授業・協議会

- ① 期日並びに会場 : 11月11日(水) 上越市立城西中学校
- ② 授業者 : 渡邊 洋臣 教諭
- ③ 単元名 : 地方自治と住民の参加
- ④ 授業の概要

研究テーマにせまる手立て

ア 話す力を高める

話し合い学習の形態とワークシートを工夫する。
話し合い学習には、ペア学習、3～4人班など様々な形態をとる。

イ 聞く力を高める

話し合いの結果を教室全体に発表してから、ホワイトボードを黒板に掲示させることを通して、集中して聞く力を高めていく。

ウ 知識を高める

授業の終わりに、学習した内容の振り返りを行う。本時では、「地方自治は民主主義の学校」という意味を授業開始直後と授業の終わりに書いたものを比較することで、知識の再構築を行う。

授業の実際

ア 地方自治を学ぶ意識を高めるために、「地方自治は民主主義の学校」をキーワードとして取り上げた。

イ 町内のごみの出し方を題材にし。学級を一つの町内に見立てて活発な意見交換を促した。

ウ 様々なアイデアが実現可能かどうかの検証を通して、地方自治に積極的に参画する態度や合意形成のスキルを高めた。



4 成果と課題

課題設定や学習形態の工夫、ホワイトボードを活用したファシリテーションの活用等、今後の授業改善に向けて参加者に多くの示唆を与えた公開授業であった。

社会科は、小中連携の成果が発揮しやすく、アクティブ・ラーニングの理念に最適の教科と言える。それだけに、指導方法や開発教材、授業参観等の面で小中がお互いに普段着の交流ができる関係づくりをより一層推進していく必要がある。